

「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」 に基づく施策のフォローアップについて （概要）

- 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（平成28年4月5日 国際的に脅威となる感染症対策閣僚会議決定）」に記載の取組について、昨年度のフォローアップ以後の各府省における取組状況と今後の取組方針を整理したもの。（詳細は資料2-2を参照）
- 本資料は、令和4年3月31日時点のものである。

令和4年12月22日

1. 普及啓発・教育

<令和3年度に実施した主な事項>

【国民啓発分野】（内閣官房、文部科学省、厚生労働省、農林水産省）

○「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」（毎年11月）にあわせて、関係機関連携の下、国民のAMRに関する理解・知識を増進し、主体的な取組を促進するための施策を推進した



- 駅におけるポスターの掲示、AMRのロゴマークの提供、ツイッター等のSNSを活用した広報を展開。
- 推進月間における普及啓発に係る政府の取組等を、内閣官房のウェブサイトにて公表。

【医療・介護分野】（厚生労働省）

○リーフレット、カレンダーを新たに作成。AMR対策推進月間に合わせてポスター、リーフレットを作成し、AMR臨床リファレンスセンターのウェブサイトで公開すると同時に小児科や薬局での配布を行なった。また、医療関係者向けのセミナーや研修プログラムを提供するとともに、AMR臨床リファレンスセンターのウェブサイトのeラーニングの充実を図った。

【畜水産・獣医療分野】（農林水産省）

○畜産動物及び愛玩動物におけるAMR対策について、SNS、愛玩動物関連アプリへの記事の掲載による積極的な広報をした。また、関係者（家畜防疫員・魚類防疫員）や獣医系大学の学生へ、動画配布等による講義・研修を実施した。さらに、医療、獣医療分野でのAMRの取組を紹介するシンポジウム「"One Health"アプローチで取り組む薬剤耐性対策」（2021年11月）を開催した。

「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」ポスター



<<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/infection/activities/amr.html>>

<今後の取組方針>

【国民啓発分野】（内閣官房、文部科学省、厚生労働省、農林水産省）

○ツイッター等のSNSを活用した広報等の実施により、国民全体に向けた普及啓発活動の更なる推進を図る。

【医療・介護分野】（厚生労働省）

○セミナーはオンラインを中心に開催し、eラーニングコンテンツの充実を図るとともに、引き続き、セミナー開催やeラーニングの情報提供を行い、参加を促していく。

【畜水産・獣医療分野】（農林水産省）

○引き続き、各種研修会（獣医師・生産者等向け、家畜防疫員・魚類防疫員等）を開催するとともに、都道府県・学会・畜産関係団体等が開催する講習会等に講師を派遣し、AMRの普及啓発を実施する。

<令和3年度に実施した主な事項>

【領域横断分野】

○ヒト医療分野、動物医療分野、環境分野の専門家から構成される「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」を1回開催した。(内閣府食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省、環境省)



➤「薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2021」をとりまとめ、前年度に続き、ヒト、動物、食品、環境等のAMRの情報を一つに集約化し、公表。

○ワンヘルスに関わるAMR、入院・外来部門における抗微生物薬使用量(AMU)、感染症、予防接種情報を集約した「薬剤耐性ワンヘルスプラットフォーム」を運営し、データを更新した。(厚生労働省)

【畜水産・獣医療分野】(農林水産省)

○家畜、養殖水産動物及び愛玩動物のAMRに関する全国的な動向調査・監視を引き続き実施した。

<今後の取組方針>

【領域横断分野】

○2022年度も、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」における議論に基づき、ヒト・動物・食品・環境等のAMRの状況を定量的に把握し、年次報告書を作成する。(内閣府食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省、環境省)

○薬剤耐性ワンヘルス動向調査報告書の年次改訂に合わせ、ワンヘルスウェブサイトを更新する。さらに、ワンヘルスに関わるAMRや薬剤耐性遺伝子(ARG)情報を、「薬剤耐性ワンヘルスプラットフォーム」に追加できるよう改修する。(厚生労働省)

【畜水産・獣医療分野】

○引き続き、家畜、養殖水産動物及び愛玩動物についてAMRの動向調査・監視を実施する。(農林水産省)

薬剤耐性ワンヘルス動向調査

- ・ヒト・動物・食品・環境に関する各サーベイランスのデータに基づき、統合的な分析、評価を実施し、抗菌薬使用量や耐性率の公表、耐性菌の拡散の早期発見、水平伝播の存在の把握等を図る。
- ・ワンヘルス動向調査年次報告により、本アクションプランの成果指標を評価。



3. 感染予防・管理

<令和3年度に実施した主な事項>

【医療・介護分野】(厚生労働省)

- 介護老人保健施設に対し、感染予防・管理及び抗微生物薬使用に関する第2回点有病率調査※を行った。
※点有病率調査:ある一時点での抗微生物薬使用状況の評価

【畜水産・獣医療分野】(農林水産省)

- 抗菌剤に頼らない生産体制を推進するため、ワクチンや免疫賦活剤、体外診断薬及び試薬の開発・実用化を支援するとともに、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を図るため、各畜種の飼養衛生管理基準ガイドブックの普及に努めた。

【食品分野】(厚生労働省)

- 食品衛生法等の一部を改正する法律が施行され、製造・加工、調理、販売等を行う全ての食品等事業者を対象としたHACCP※に沿った衛生管理が2021年6月1日に本格実施され、小規模事業者が円滑にHACCP※に取り組めるよう、手引書が未整備な業種に対し、各事業者団体による分かりやすい手引書の作成を支援し、厚生労働省の検討会で内容を確認した。

※HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Points):危害要因分析・重要管理点

介護保険施設AMRサーベイランス

- 介護老人保健施設、特別養護老人ホームにおける現状把握と薬剤耐性菌関連指標を評価するため、抗微生物薬使用に関する点有病率調査を実施

○調査対象施設

調査対象	施設概要	調査
介護老人保健施設	入院治療を終え、自宅へ戻ることを目指すリハビリ施設	平成30年度、令和3年度終了
特別養護老人ホーム	在宅生活が困難な中重度の要介護者の生活施設	令和2年度終了

- 結果のフィードバック・施設の特性に応じたAMR対策へ

<今後の取組方針>

【医療・介護分野】(厚生労働省)

- 介護老人保健施設に対する、感染予防・管理及び抗微生物薬使用状況に関する継続的な調査を行い、結果の経年的変化を把握する予定である。

【畜水産・獣医療分野】(農林水産省)

- 引き続き、抗菌剤に頼らない生産体制を推進するため、動物用ワクチンや飼料添加物等の開発・実用化を支援するとともに、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を図る。

【食品分野】(厚生労働省)

- 引き続き、HACCPに沿った衛生管理の確実な実施のための取組を実施する。

4. 抗微生物剤の適正使用

<令和3年度に実施した主な事項>

【医療・介護分野】(厚生労働省)

- 「薬剤耐性(AMR)等に関する小委員会」、「抗微生物薬適正使用(AMS)等に関する作業部会」において作成した「抗微生物薬適正使用の手引き(第二版)(2019年12月公開)」のダイジェスト版を医療機関の研修会などで配布している。
- 抗菌薬等の医薬品の適正使用の在り方について検討し、令和4年度診療報酬改定において感染対策向上加算及び耳鼻咽喉科小児抗菌薬適正使用支援加算を新設。

【畜水産・獣医療分野】(内閣府食品安全委員会、農林水産省)

- 亜鉛バシトラシン及びスルホンアミド系合成抗菌剤について食品健康影響評価の結果を農林水産省に通知し、その結果を踏まえ、亜鉛バシトラシン及びスルホンアミド系合成抗菌剤のモニタリングの継続を決定した。
- 国際機関等の評価指針等の改正動向や、これまでの評価経験から得られた知見を踏まえ、2022年3月に「家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針」及び「食品を介して人の健康に影響を及ぼす細菌に対する抗菌性物質の重要度のランク付けについて」の改正を行った。
- 2019年の動物用抗菌剤の販売量データ及び2019年までの愛玩動物分野における人用として承認されている抗菌剤の販売量を取りまとめて公表した。

<今後の取組方針>

【医療・介護分野】(厚生労働省)

- 「抗微生物薬適正使用の手引き 第二版」及びダイジェスト版の臨床現場への普及に努める。
- 令和4年度診療報酬改定の影響等について、中央社会保険医療協議会において調査・検証を行う。

【畜水産・獣医療分野】(内閣府食品安全委員会、農林水産省)

- 引き続き、薬剤耐性菌の食品健康影響評価を実施するとともに、その結果を踏まえたリスク管理措置を行う。
- 引き続き、動物用抗菌剤の販売量及び愛玩動物分野における人用として承認されている抗菌剤の販売量のデータを収集する。

5. 研究開発・創薬

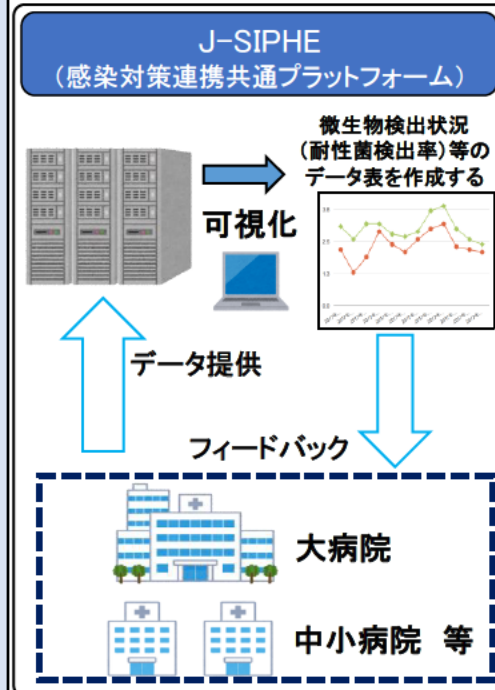
<令和3年度に実施した主な事項>

【医療・介護分野】

- 「新興・再興感染症研究基盤創生事業」において、タイ、ミャンマー、インド、ガーナの各海外拠点及び日本国内で収集したカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)株の全ゲノム解析実施の結果、日本、東南アジア、アフリカで系統的に大きく異なるCREの分布及び薬剤耐性遺伝子の増強メカニズムを明らかにした。(内閣府(健)、文部科学省)
- 医療機関におけるAMR情報を集約する「感染対策連携共通プラットフォーム(J-SIPHE: Japan Surveillance for Infection Prevention and Healthcare Epidemiology)」を運営した。(厚生労働省)

【畜水産・獣医療分野】(農林水産省)

- 動物用医薬品の承認申請資料の調和に関する国際協力(VICH)の枠組による、新興国へのガイドライン普及のために開催されたウェビナーに専門家として参加した。
- 抗菌剤に頼らない生産体制を推進するため、ワクチン、免疫賦活剤、薬剤感受性ディスクの承認申請等に必要な試験等を対象に支援した。また、ワクチンを含む免疫誘導技術等の研究・開発のためのプロジェクトを実施した。



<今後の取組方針>

【医療・介護分野】

- 「新興・再興感染症研究基盤創生事業」において、タイ、ミャンマー、インド、ガーナ拠点及び国内でのカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)株の収集とゲノム解析を継続して実施するとともに、取得されたゲノムシーケンスデータ及びパブリックデータを活用してグローバルな拡散伝播・分布の解析及び新たな耐性増強メカニズムの解明を実施する。(内閣府(健)、文部科学省)
- J-SIPHEの年報を作成し、体系的なリスク評価のあり方に関する研究を継続する。(厚生労働省)

【畜水産・獣医療分野】(農林水産省)

- 引き続き、動物用医薬品の承認に必要な試験について、世界共通のガイドラインの策定・改正のためのVICHにおける作業に積極的に参画・貢献する。
- 引き続き、抗菌剤に頼らない生産体制を推進するため、動物用ワクチン等の開発・実用化を支援するとともにワクチンを含む免疫誘導技術等の研究・開発のためのプロジェクトを実施する。

6. 国際協力

<令和3年度に実施した主な事項>

○厚生労働省で第4回AMRワンヘルス会議(2022年2月)を開催。(厚生労働省)



▶ アジア・大洋州諸国の有識者らとAMR対策や研究動向について情報共有し、取り組むべき優先課題について意見交換

○日米欧を含む薬事規制当局国際連携組織(ICMRA)において、新たにAMRワーキンググループを設置し(2021年4月)、COVID-19パンデミックの経験を踏まえた新規抗微生物薬の開発推進等における各国の好事例の収集・分析を開始するなど継続して薬事規制当局間で議論を行った。(厚生労働省)

○OIEが主催するAMRに係るウェビナー(2021年4月及び5月)に我が国の専門家が参加し、薬剤耐性対策についての情報収集や日本の取組の紹介を行うとともに、今後、OIEが取り組むべき課題を議論するなど、OIEによるAMRに対する取組を支援した。(農林水産省)

○コーデックス委員会のAMRに関する国際的なガイドラインや実施規範に関し、タスクフォースでの作業に積極的に参画し、その策定・改定に貢献した。(農林水産省)

○国際協力機構(JICA)技術協カプロジェクト等を活用し、国際協力事業(技術協力10件、技術協力(研修)13件)を展開した。(外務省)

AMRに関するアジア太平洋
ワンヘルス・イニシアチブ(ASPIRE)



<<http://test.aspire-wg.net/>>

<今後の取組方針>

○アジア諸国の担当者によるAMR対策に係る国際協力に関する国際会議を開催する。(厚生労働省)

○引き続き、薬事規制当局間での検討を進める。(厚生労働省)

○引き続き、OIEにおける議論への参画等を通じて、OIEの取組を支援する。特にアジア地域における薬剤耐性対策の強化・能力向上を支援する。(農林水産省)

○引き続き、JICA技術協カプロジェクト等による感染予防・管理対策、AMSを含めた抗微生物薬の利用可能性の確保、検査室機能強化等に関する技術協カを実施する。(外務省)

- 「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」に記載の取組について、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、一部取組に影響が生じたものの、全般的に着実に進捗。
- 普及啓発・教育については、毎年11月の「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」にあわせて、様々な媒体(ウェブサイト、ポスター、SNS等)を活用した広報活動を展開。
- 動向調査・監視については、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査 年次報告書」を継続的にとりまとめ、ヒト、動物、環境の各分野のAMR情報を一つに集約化。同報告書において、アクションプランの成果指標の評価も行い、進捗を確認。
- 感染予防・管理については、介護老人保健施設に対する抗微生物薬使用状況に関する調査や、各畜種の飼養衛生管理基準ガイドブックの普及等を実施。
- 抗微生物剤の適正使用については、「抗微生物薬適正使用の手引き(第二版)(2019年12月公開)」のダイジェスト版を医療機関の研修会などで配布。
- 研究開発・創薬については、「新興・再興感染症研究基盤創生事業」等において研究を推進し、日本、東南アジア、アフリカで系統的に大きく異なるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の分布及び薬剤耐性遺伝子の増強メカニズムを解明。
- 国際協力については、国際会議での議論に参画するとともに、AMRワンヘルス会議を開催し、AMR対策の推進に貢献。

